

## 「小鳥の巣箱の設置場所」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

シジュウカラ(四十雀)やヤマガラ(山雀)は、樹木の「うろ」や、穴に巣草(たとえばミズゴケ)を運び込んで巣を造る。「樹洞性営巣」と呼ばれる。繁殖期(3月~6月)にうまく穴が見つければいいが、都会でも高原でも、営巣に適した穴はなかなかない。かといって、アカゲラ(キツツキ)とちがって、シジュウカラは自分で穴を掘ることはできない。そんなわけで、こうした野鳥は、慢性的な住宅難に陥っている。

そんな彼らにとって、人工的な巣箱は、非常に有難い存在のようだ。北軽井沢でも、前の年の秋から、適当な場所に巣箱を架けておけば、ほぼ100%営巣する。しかし、その設置場所が問題なのだ。



「人工的な野鳥の巣箱」 一見平和そうに見えるが、実はそうではない。写真はヤマガラの巣立ちの瞬間。

一般的には、市販または手作りの巣箱を、適当な樹木の幹に架ければOK、と思っている方が多いと思う。しかし、これは大間違いで、よほど設置場所を考えない限り、ヘビの餌食になってしまう。専門家の話だと、野生・人工巣箱を問わず、ヘビが登れる状態の設置場所だと7割はヘビの被害に遭うという。私が架けた巣箱も、過去3回もヘビの被害に遭い、そのうち一回はヒナ全部を飲まれてしまった。いずれも、設置場所や設置方法に問題があったのだ。

白樺の樹の幹に巣箱を設置して、何も防護策をとらなければ、ヘビは強力な背筋力で幹を登って、巣箱に侵入する。その場合、防護策として幹の下部に「ヘビ返し」を設置する。正倉院の「ネズミ返し」のような

ものだ。周囲に何も無い独立樹なら、これでほぼ100%ヘビは防げる。しかし、周囲に樹木があれば、ヘビは枝伝いにジャンプして、上部から侵入してくる。



最終的な結論は、樹木の幹ではなく、家屋の壁に設置してしまう・・・という方法だ。これなら、さすがのヘビにもヘビーな状態で、ダークエネルギーが働かない限り、絶対に登って来られない。しかし、これは野鳥にとっては、「人間」という新たなストレスがある。当初、この方法では営巣はしないだろうと思っていた。しかし、彼らの住宅難は相当に深刻なのだろう。今年も、この状態で問題なく子育てをしている。



巣箱は、カメラを内蔵できる特注品である。中にはネットワーク対応の赤外線カメラが設置されていて、巣箱内の様子を、遠隔で観察できるのだ。